



鹿都 第507号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

栃木県鹿沼市長 佐 藤



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のあった標題の件について、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

栃木県 鹿沼市

- ・ 少子高齢化社会、人口減少が進展していくなかで、社会情勢の変化に対応するために、拡散した都市構造から持続可能な集約的都市構造への変換が求められている。市街地集約に向けて、鉄道駅周辺等の集約拠点の整備や交通ネットワークを改善する必要がある。そのためには、道路、市街地等の良質な社会資本ストックを形成すべく、重点的に投資、施策の集中を図る必要がある。
- ・ 道路整備が進む一方、道路関係事業費の中で維持管理業務に係る経費の割合が大きくなってきている。道路の管理は交通安全の確保等市民生活に密着した必要経費であり、舗装改修等の維持管理費に国庫補助制度の創設等財政的支援制が必要と考える。
- ・ 国庫補助事業における事務の簡素化や補助率の引き上げ

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

栃木県 鹿沼市

○ 現状	○ 課題
・ 市総合計画の都市基盤整備において、鉄道駅周辺の既成市街地の道路整備について、土地区画整理事業の計画になっている地区がある。 ・ 市総合計画の交通ネットワークの形成の中で、都市計画道路の新規路線の整備を計画している。 ・ 市道延長は 1,500 km を越えており、改良率は 50% に満たない状況であるため、市民から道路の整備要望が多い。	・ 土地が細分化された既成市街地であることから、事業への合意形成が難しい。また、事業の長期化と事業費の増大が懸念される。 ・ 多額の事業費を必要とすることから、厳しい財政事情の中で、新規路線の事業化は非常に難しい。 ・ 特に生活に密着した道路は国庫補助の採択は難しく、財政事情も厳しいため要望にこたえることが出来ない。

本市は、首都東京から100km圏内に位置し、県都宇都宮市に隣接しています。北部では、国際観光地の日光に隣接し、南部には、国土軸の一つとなる東北縦貫自動車道の鹿沼インターチェンジがあり、北関東自動車道も走っています。市の南東部地域はJR日光線、東武日光線、東武日光線がとおり市街地を形成し、周辺には稲作を主とした田園地帯が広がっており、また北西部は、前日光県立自然公園をはじめとする美しい自然に恵まれています。

JR鹿沼駅と東武新鹿沼駅を囲む円の内側の地域を中心市街地として、都市機能を集積し、都市の骨格となる高い走行機能と交通処理機能を有する道路を配し、バス、鉄道などの公共交通機関とのアクセス機能の向上を図ります。特に駅周辺については、新しい商業サービスや文化産業などの振興などを通じて、新たな駅前にふさわしいコンパクトなまちなか（拠点）を目指します。また、道路や公共施設のバリアフリー化により、歩行者の回遊性の向上を図り、高齢者や障害者などを含めたすべての人に優しい街を目指します。市街地の周辺部や北西部については、緑・清流・空気といった美しい自然環境の保全と利活用のため、地域間を連絡する幹線道路や、それに接続する補助幹線道路、生活に密着した身近な道路を整備し、安全で機能的なネットワークの形成を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④
栃木県 鹿沼市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
・ 少子高齢社会に対応したバリアフリー社会の形成等	・ 歩道のバリアフリー化	・ 歩行者、障害者等の安全で円滑な通行の確保	
・ 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・ 歩道整備、交差点改良等交通安全施設等整備 ・ 交差点改良や交通規制等による駅前交通の制御の検討、推進	・ 交通渋滞の解消 ・ 通学路の安全確保	
・ 都市交通の快適性、利便性の向上	・ 市街地における都市計画道路の整備 ・ 自由通路、駅前広場の整備等交通結節点の改善	・ 市街地の渋滞解消及び中心市街地の活性化 ・ 都市間連携の強化 ・ 公共交通機関の利便性向上	
・ 地域間交流、観光交流等を通じた地域や経済の活性化	・ 市町合併による地域の連携や進捗に資する道路整備 ・ 地域の実情に応じた道路整備	・ 地域間交流の円滑化 ・ 地域の日常生活における利便性の向上	